

環境を考えるのならダムを造るべきではありません！

八幡 つぐ子

【1】 築川ダムは確実に短命です。

積もる土砂、黄信号 四十四田ダム（岩手日報 2005/1/24）

盛岡市の四十四田ダムの土砂堆積が予想を上回るペースで進んでいる。100年計画で建設したが、36年で既に土砂堆積量の93%まで埋まった。

築川ダムの建設費が風化地層の厚さにより高騰したのはみなさんもお存じのはずですが、この風化層は築川流域の至る所で見られ、将来堆砂として確実にダム貯水池に貯まっていくことでしょう。ひょっとしたら、四十四田ダムのペースを上回ることにもなりかねません。

《築川流域の風化層の状況》

赤みがかった地層が全て風化層です。



ダムの延命は容易ではありません。

四十四田ダムでは現在、ダム堆砂を軽減するために上流砂防ダム等の対策が話し合われていますが、砂防ダムでさえその場しのぎでしかありません。

富山県の宇奈月ダムでは排砂（堆砂を放流水と一緒に排出すること）が河口漁民との公害紛争にまで発展しています。

将来必ずかかるダム寿命経過後の費用は、あらかじめ建設費に盛り込んで費用対効果を議論するべきではないでしょうか。

【2】 ダムによる河床低下を軽視してはいませんか？

今年になって立て続けに館坂橋・南大橋での橋梁強化工事や開運橋付近の護岸改修工事が行われていますが、これらは上流の四十四田ダムが大きく影響していると思われます。

以前ダム関係者からの情報によれば、北上川に架かる橋の多くは、上流からの土砂の流下が四十四田ダムによって遮られているため、河床が年々低下しているそうです。

そのような状況に重ねて、H14年やH16年などの洪水流が一気に土砂を浚ってしまい、今まで目立たなかった橋脚や護岸の不安が一斉に表面化したことが、これらの工事の隠れた原因です。



ダムができれば、川沿いの農耕地は徐々に削られていきます。

大雨による増水で時には川が低地にある農作物に被害を与えるのは確かです。しかしその一方で、洪水による堆積土が土地を肥沃にしていることも忘れてはなりません。

もしダムを造ってしまえば、写真のような低地の田畑は徐々に削り取られ、その修復のために護岸工事が必要になり、川の人工化はさらに加速し、自然は姿を消してゆきます。



【3】ダムができれば上流にも影響が・・・

平成12年竣工の早池峰ダムの上流にある久出内川では、砂防ダムがいくつも造られています。これは、将来必ず問題になるであろうダム堆砂問題を、あらかじめ見越してのことと思われる。



改修の必要がなかった場所にも護岸が立ち並ぶことに・・・

ダムが土砂の流下を防ぐことにより、下流とは反対に上流は河床が徐々に上昇し、今度は上流が水害多発地域になってしまいます。

それを防ぐためにまた護岸。

このような川をあなたはお望みでしょうか。



【4】富栄養化が進みアオコの発生も懸念されます。

上流に放牧地のある築川の場合、富栄養化の問題は深刻になることが予想されます。ダム貯水池に堆積する木の葉などの堆積物は、自然の流れでは生き物を育む栄養源となりますが、流れを遮られた状態ではヘドロとなって堆積し、大雨の際攪拌され、悪臭と共に下流へ流下します。

田瀬ダムでは近年富栄養化によりアオコが発生し、ダム湖の水質悪化の傾向が強くなってきています。

ダム湖がもたらす大量の水蒸気による、気候への影響も懸念されます。

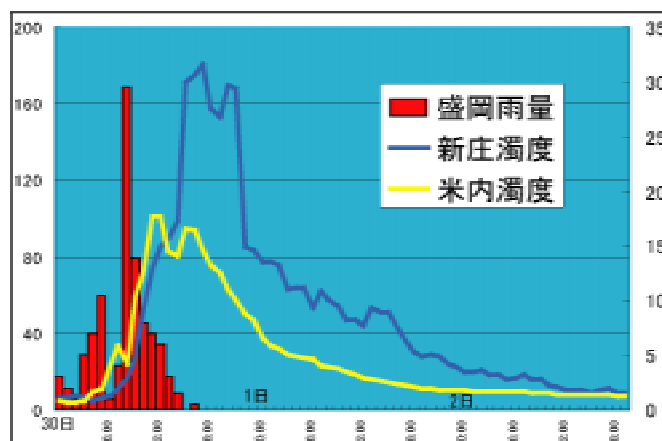


【5】水質にも影響が・・・

同じ雫石水系にある新庄・米内の2浄水場の取水口での濁度を比較すれば、米内川表流水だけの米内浄水場よりも、綱取ダムからの水が混じる新庄のほうが、降雨後の濁りが長引きます。

これは浄水コストに大きく影響し、新庄が活性炭処理という複雑な設備を必要とし1 m³あたりの薬品代が1.1円であるのに対し、米内は浄水の半分が緩速濾過(自然の流下を利用した濾過方法)で1 m³あたりの薬品代が0.6円と、安価で安全な水道水であるといえます。

また、ダムの水は気温の影響を受けやすく、夏は生温く冬は刺すように冷たくなり、光熱費にも影響します。



【6】川を遮断するダムと環境は共存できません！

ダムは最大の環境破壊です。小動物移動路も希少植物の移植も、ほんの気休めでしかありません。

根田茂川にはサクラマスが毎年遡上します。ダムで川が遮断されると、この魚たちはふるさとを失ってしまいます。

【7】利水容量減少でダム湖面積は以前の80%に。

利水見直しによりダム堤が5mほど低下しました。このため、ダム湖の面積も利水見直し以前の8割程度の大きさになりました。

「流水の正常な機能の維持」の必要性等が今だに議論されておらず、今後の展開ではダム堤がいつそう低下する可能性があります。



環境と引き替えに、ダム湖を中心とした観光産業に望みをかける声もあるようですが、甘い見込みに終わるかもしれません。(写真は渇水時の石淵ダム)

